

# 平成 22 年環境活動団体等交流会 報告

事業名	平成 22 年度環境活動団体等交流会
日時	平成 23 年 3 月 13 日 (日) 10:30~16:00
場所	山口県セミナーパーク研修室 103、204
参加者数	19 人 (活動団体 4 人、アドバイザー 8 人、パートナー 3 人、学習施設 1 人、行政 1 人、センター職員 2 人)

## 1 スケジュール (詳細別紙)

10:30~12:00	受付、開会、講演
12:00~13:00	昼食、休憩
13:00~13:30	交流会開催趣旨及び内容の説明 今年度、実施した出前講座、移動環境教室について
13:30~14:30	体験型ワークショップをみんなで体験
14:30~14:40	休憩
14:40~15:40	グループに分かれ、「体験型ワークショップ」を企画
15:50~16:00	まとめ、閉会

## 2 交流会の目的

全県的な環境学習を推進するため、環境学習に取り組んでいる環境活動団体等の活動状況や今後の課題等について、情報交換・意見交換を通して相互理解を深めるとともに、活動における環境活動団体等間の連携のあり方等について考え、ネットワーク化を図り、具体的な活動につなげていく。

**【講演会】** 研修室 103 「市民とともに身近な生きものをさぐる」 講師 鈴木 武氏  
このたびは、こども自然共生活動推進プログラムの体験発表会と合同開催しました。  
(別途報告有)

**【交流会】** 講師 地球温暖化防止活動推進センター 大森 一世氏

**【開会、内容説明】** セミナーパーク研修室 204

環境学習推進センターから交流会の流れについて説明し、今年度センターが実施した出前講座・移動環境教室などについて話をした。のち、大森さんの進行のもと、ワークショップを行った。



大森さんによる  
アイスブレイク。

**【参加型ワークショップを体験】** 講師 2 人、それぞれ 2 5 分程度

○環境アドバイザー 樋口さん



「ちよるる環境プログラム」を披露してもらい、みんなでプログラムを体験しました。2人1組×2でゲームを行う。残りの方々はスゴロクの周りにいてもらう。スゴロクの要領でゲームを行い、番号のところに止まったら、周りの人にその番号の札をめくってもらう。書いてあることを読み上げ、ひと言コメント。札の文例は、「テレビの電源つけっぱなし（5コマもどる）」「冷房は28度、暖房は20度に設定している（3コマすすむ）」など。1ゲーム2、30分程度。

（解説）短所としては、小学生以下対象に行うと、ゲームの中心者以外は他のことをはじめてしまうので、クイズなどを交えて行うときもあります。ゲームなので、コマを進めること、ゴールすることに執着してしまい、本来の目的が希薄になりがちです。中・高校生にはあまり受けません。大人の方が割と楽しんでやってくれると思います。ビニールシートに書いて作ったのですが、ゲーム途中で子どもたちが手薄になったとき、ツメでひっかいて線が消えてしまうことがあるのですが、ビニールなのでなんども書き足したりできます。今日のこの機会にみなさんからご意見を聞きたいと思います。

- （意見）・途中でゲーム参加者が同じ番号でとまってしまうことがあった場合。同じ文章を読むことになるが、どうなのだろう？→何回も読んでもらうことで記憶に残るかも・・・
- ・番号の配置が理解できない。→他のスゴロクのをまねして作ったので。
  - ・周りにいる参加者もゲームの一員となるよう、工夫が必要では？

○環境アドバイザー 松田さん



山口県ネイチャーゲーム協会に所属。

ネイチャーゲームについて紹介。

小学校をはじめ、いろいろなところで研修用のプログラムとしても使われている。

今年度、土改連（山口県土地改良事業団体連合会）、通称：水土里ネットからの依頼で、阿武川流域を源流からずっと川を見ながらのバスツアーを

行ってほしいということで、企画・実施したものを例に挙げ、お話いただきました。

ただバスツアーを行っただけでは、なにも残らないと思います。水をテーマにネイチャーゲームを交えて、感覚をとぎすませる訓練をしながら、学んでいくように組み立てました。ゲームで観察力をつけてから水源のごみ拾いをさせたところ、「急な斜面のごみも拾いたい」と子どもたちが言うので、ロープを子どもたちの体に巻き、上からひっぱる状態で拾うことにしました。ごみ拾いをしたことで、「こころもきれいになった」という感想が出て、ねらいどおりになったと思いました。最後はクイズ形式でふりかえりながらまとめを行いました。子どもたちには本物を体験させたいと思っています。体験をとおして「気づき、関心、興味」を持たせることで、「理解」「行動」につながっていくと思います。

【グループワーク】4グループ作成

各グループ毎でメンバーのうち1人がある小学校から環境学習の依頼を受けたとして、プログラムとスケジュールを企画し、発表しました。



体験型、参加型の講座を行うとき、いろいろな手法があります。例えば、樋口さんが披露してくれたスゴロクやビンゴ、カードゲーム、替え歌、川柳、謎かけ、パズル、間違い探し、クイズは地球温暖化防止活動推進

センターの講座や研修でも用いて行ったことがあります。それぞれの講師、団体の持つ特性を活かし、架空のもの、実現不可のようなものではなく、実際に行うかもしれないと思って企画してほしい。

1班



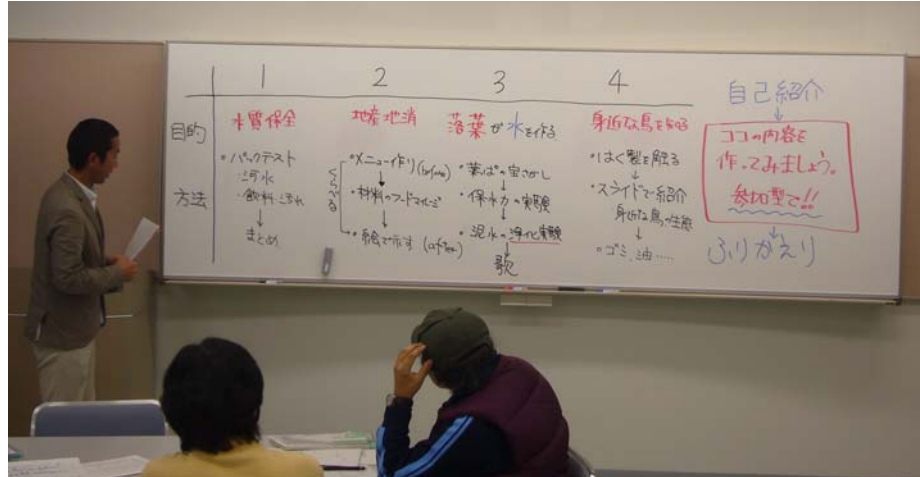
2班



3 班



4 班



別紙企画書あり

- 1 班 「川について学ぼう」 佐波川を守る会主催  
川の水質を守るために何が出来るかを考えよう。
- 2 版 「今晚のメニューを考えよう」  
地産地消の重要性を考えてもらう。
- 3 版 「ハッパは宝もの」 ヒュッテ桂谷ランプの宿主催  
ハッパが水をつくることを知る。
- 4 版 「身近にいる鳥を知ろう」 きらら浜自然観察公園  
身近にいる鳥を通して自然環境を考えるきっかけを作る。

### (反省・考察)

昨年度と同様に午前中に講演会を行い、午後交流会を行いました。講演会は自然共生の体験発表会と同時開催しました。

講演会は、興味深い内容で、参加者も熱心に聞いておられました。調査対象物を身近な誰でも知っているものに焦点を絞ることで、参加者自身が興味を持って取り組めるし、対象物についての説明の時間も省けて、時間的にも効率がいいとのこと。今後の事業企画にとって、とても参考になりました。

交流会では、参加型ワークショップを行いました。他の人がやっているプログラムを体験したり、講座の組み立てなどの話を聞くのはいい機会になったと思います。また、グループワークも今回は各グループメンバーがそれぞれ意見を出し合い、いい企画ができていました。企画された講座案は是非来年度、実行に移したいと思います。